

\* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、総合工事業、職別工事業が悪化傾向を強めました。設備工事業は悪化傾向が弱まりました。全体としては-53と2ポイント悪化傾向を強めました。売上額は横ばい、収益は7ポイント減少傾向を弱めました。受注残は5ポイント、施工高は3ポイント減少傾向を弱めました。価格面では、請負価格は4ポイント下降傾向を強め、材料価格は5ポイント上昇傾向を強めました。資金繰りは6ポイント窮屈感が弱まりました。残業時間は6ポイント減少傾向が弱まり、人手は2ポイント過剰感が弱まりました。設備の状況は5ポイント不足感が強まり、設備投資を実施した先は車両を中心に16%と、前期に比べ5ポイント増加しました。

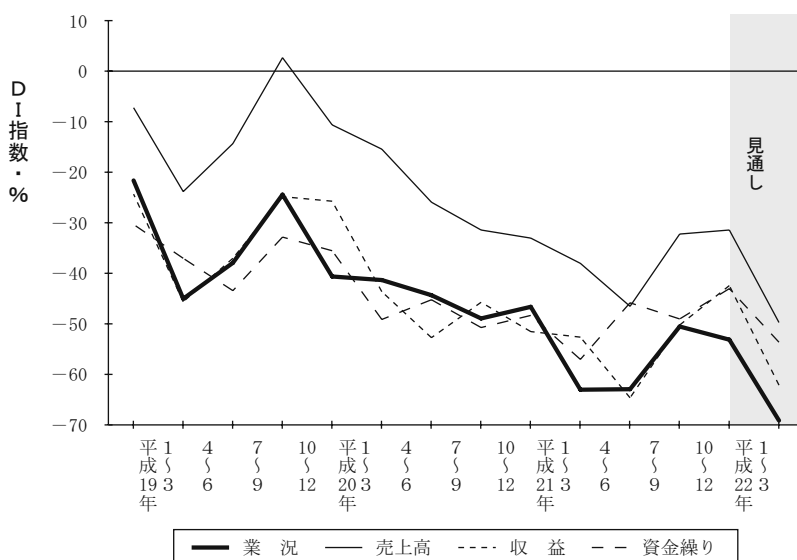
来期の見通し

業況は、総合工事業、職別工事業、設備工事業とも悪化傾向を強めるとみています。全体としては-69と16ポイント悪化傾向を強めそうです。売上額は18ポイント、収益は19ポイント減少傾向を強めるとみています。受注残は19ポイント、施行高は18ポイント減少傾向を強めるとみています。価格面では、請負価格は9ポイント下降傾向を強め、材料価格は2ポイント上昇傾向を強めそうです。資金繰りは11ポイント窮屈感が強まりそうです。残業時間は8ポイント減少傾向が強まり、人手は14ポイント過剰感が強まりそうです。設備の状況は5ポイント不足感が強まり、設備投資については車両を中心に8%の先が実施予定とし、今期に比べて8ポイント減少するとみています。

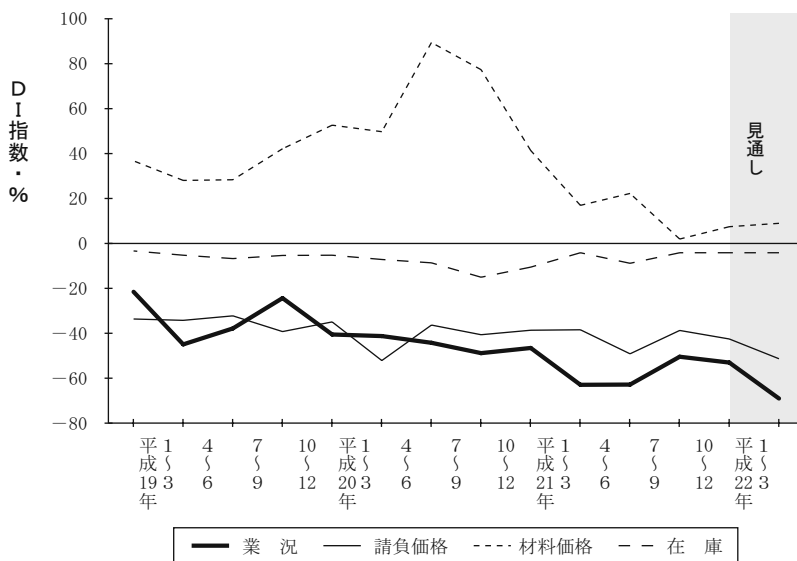
調査員のコメント

- 請負価格が下降しており、施工数が増加しても収益につながらない。(土木工事業)
- 地上デジタル放送に伴う受注増加により、安定した収益確保が出来ている。(電気通信工事業)

景況の推移

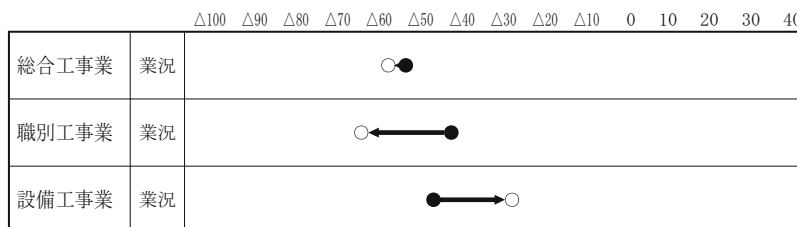


主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

今期(21年10月~12月) / 前期(21年7月~9月)



経営上の問題点	1位	売上停滞・減少	73%
	2位	同業者間の競争の激化(2)	70%
	3位	利幅の縮小(3)	52%

当面の重点経営施策	1位	経費を節減する(1)	84%
	2位	販路を広げる(2)	50%
	3位	情報力を強化する(3)	36%

\*( )は前回順位